

国際大会参加報告書

2017年 11月 28日

公益社団法人 日本ボディビル・フィットネス連盟

会長 藤原 達也 様

報告者 監督 朝生照雄

㊞

大会名	2017IFBB世界ジュニア&マスターズ ボディビル&フィットネス選手権大会				
開催期間	2017年 11月 10日 ~ 11月 13日				
開催場所	国名:ルーマニア		都市名:ピストリタ市		
参加国数	45 カ国		参加選手数	526名	
役員			役 職 ・ 他		
	監督	朝生 照雄	選手強化委員長		
	コーチ	市川 櫻	女子委員会委員		
選手	選手名	所属連盟	カテゴリー	順位	備 考
	選手15名につき				
	別紙掲載				
レポート	◎大会の状況、選手の活躍は別紙に掲載する。なお、団体戦でマスターズは45チーム中11位、ジュニアは28チーム中25位。				

※ 本報告書は帰国後1ヵ月以内に大会結果表を添付して日本連盟事務局に提出して下さい。

※ レポート欄が足りない場合は別紙に記入して添付して下さい。

2017ジュニア&マスターズ世界選手権

監督 朝生照雄

東欧の地ルーマニアのビストリタ市で11月10日から13日まで開催され、日本からは15人の選手が12競技に挑戦し、私と市川櫻コーチが参加しました。今大会の情報と選手の活躍を報告します。

2年連続中南米開催からヨーロッパに移ることになったことで、競技数も29から36と増え、参加者も333人から526人に増加しました。昨年は人が集まらず実施しない競技もあったが今年は全ての競技に人が集まり、さらにビキニフィットネスなど参加選手が多いところは身長で分けたりしたため、世界大会男子(21競技)、女子(20競技)と違いジュニアとマスターズ(以後Mと表示)で男女さまざまな競技が全て2日間で行われた。1日を午前午後の2パートに分け計4パートの中で予選、決勝、表彰行うため、審査にかかる時間は極めて短く、1日目は昼食も食べられず、休憩時間もなく行い、終わったのが午後10時30分を回っていた。最終日も同様に夜8時近くになっていた。2日目に突然6番という審査委員長の隣での審査の指名を受け、審査方法が少し違うので多少の戸惑いと焦りを感じながらも審査を務めることが出来た。以下レポートします。

◎ジュニア選手の活躍

日本ジュニア優勝者の高校生ビルダー相澤隼人選手がボディビル75キロ以下級に出場した。長時間の移動や寒さ、食事、ホテル環境など条件の悪い中、できる準備をしっかりと行い、トップ6に早々に進んだ。フリーポーズでは小気味よくポーズをとり観客の受けも良かったが、ポーズは決まるのだが、少し流れていて決めが足りなかった。ポーズの数を絞り抑揚をつけることで評価は必ず高くなる。トップ6の中では最も身長が低く、体重も最軽量の68.5キロだったのでやはり小さく見えたが、今後さらにバルクアップに努め、特に胸を厚くすることなどが出来れば、次回は間違いなく5位を上回り表彰台に上がると思う。

また、フィジークの安田旬輝選手はフィジーク選手に最も必要な表情、自信が緊張のためか表現できず、埋没した感じだったが、肩幅、広背筋の付き方、長い手足など素質は十分なので期待したい。ビキニフィットネスの許冨恵選手も背中中の広がり等長所が多く、今後厚みを付けるトレーニングを積むことで期待できる選手である。

◎Mフィジーク 佐伯伊都企選手は初出場で健闘して4位に入ったがもう少し上のジャッジを私はつけた。トップレベルのサッカーや格闘技でも鍛え、肉体と精神的な強さのアピールも良かった。大会経験を重ね、さらに胸の厚みを付けて欲しい。反対に同クラスの中村厚志選手は15位に沈んだが、メンズフィジークの規格以上の驚異の胸、肩のバルクに色もかなり黒くしたので、ボディビルタイプとみなされ評価が上がらなかった。典型的なマスキュラーメンズフィジークタイプなので、競技に出場出来れば大いに活躍できると思う。

◎Mクラシックボディビル 仲泊兼也選手は自信最高の仕上がりで殿筋も最高に切れていた。またポーズも研ぎ澄まされた日本刀をイメージさせ、見ている人を魅了しており18人中の5位は不満が残ったが審査員の見方が割れたと思う。部分的に改造は必要だが、さらにクラシックを極めてもらいたい。松岡啓選手はあと少し絞ればメダルに届いたと思う惜しい4位だった。筋肉のバランスも良く期待は大きい。林勇宇選手は昨年2位となり期待されたが、5位に入賞となった。よりバルクアップしており絞り、特に広くなったバックに似合うディフニッションがもう少し欲しかった。

◎Mマスターズボディビル 難波文義選手が80キロ以下55才以上の部で3度目の3位となった。今年から60才、65才の部がなくなり、55才以上にまとめられての3位入賞は日本の唯一のメダル獲得でもあり、大変価値がある。同じカテゴリーには金澤利翼選手が出場し81才の体に見えないほど大きく見え、元気を十分アピールし観客をわかせた。今回もサントーハ会長より特別ゴールドメダルが授与され、金澤選手からも流暢な英語によるお礼が述べられ、「天国の玉利前会長も喜んでおられるでしょう」とのスピーチでより多くの拍手をいただいた。50才80キロ以下級に出場した村松幸大選手はコンディションも良く期待されたが80キロ以下級ということで今回の体重が67.7キロであることから18人中最軽量となり、大きさの差で12位に沈んだ。やはり75キロくらいないと世界での勝負で勝つことは難しい。

◎Mビキニフィットネスは人気があり昨年の33人から56人と出場者が増加し、秋本明子選手はアジア選手権6位の勢いをかって出場したが11位となった。ビキニフィットネスは東欧だけにロシア系の選手が多くプロポーションも良くビキニといえどもかなり筋肉質でサイズもあった。秋本選手がもう少し足のバルクを付けることで上位にいけると思う。

◎Mウイメンズフィジーク 山野内里子選手がはじめてマスターズに出場を決めての挑戦だったが、35才以上のワンカテゴリーであり、上位者は40才前後の中で厳しい戦いとなった。56才での出場は15人の最年長であったが7位となりあと一步のところまで6位入賞を逃した。手の開きの形は直すべきだったと感じたが、改善点はあるので今後も頑張ってもらいたい。

◎Mボディフィットネス 45才以上 山本加容子選手 長嶋雅子選手が昨年に続き出場し、山本選手は5位、長嶋選手は10位となった。ボディフィットネスは筋肉がかなりクリアーに見えないと勝てないので腹筋など改善し、筋量もさらにつける必要がある。

総括

・初めての経験だったが1日目の競技と2日目の競技が入れ替わっており、1日目に会場に行き、そのことを知り、慌ててホテルにタクシーで取りに行くことがあった。前日の計量後、夜中に変更の作業を行いインターネットに訂正されたと思われる。ジャッジーズミーティングでも話は無かったので大変焦ったが選手が全員一緒の行動をとっていたので事なきを得た。

・大会前にポージングチェックを毎大会ごと行ってきたが、やる段になって女子選手らの意見によって男女別々に行くことになった。普段細かく見ることがないので、日本代表となった機会に全員の前でチェックを行いほかの競技を見て参考になることも多々ある。男女混合はアジア選手権やジュニア&マイスターズ世界選手権だけなので互いを見る機会は少ないので積極的に参加すべきである。まして派遣選手はJOCより補助金も出ており、成績を上げるための最大限の努力をする義務がある。役員が協力しなければならぬところを選手の意見をやみくもに聞いて、別行動することは多くの選手にとってマイナスになったと思う。後でアドバイスを聞かれても舞台上でわずかに見ただ

けでは的確に指導することは困難である。カラーリングなどやることは男女変わらないので決めたことを前提に自分たちの行動を合わせるようにしていくべきと考える

- ・日本選手と外国選手を比べて一番感じたことは、バルクで特に胸板が薄く、大胸筋はついているのに胸郭自身の厚さが足りていないのはプルオーバーなど基本的な種目が十分でないと思う。さらに背部のカットや大腿部も筋量不足を感じた。

- ・日本選手はフリーポーズがうまいが、最近の外国選手も鈴木雅選手の効果なのか、大変上達している。日本選手もさらに創意工夫して表現力に磨きをかける必要がある。

- ・カラーはプロタンがオフィシャルになっており利用した日本選手は多いが照明が暗かったため、色が黒すぎている。日本と違って会場の明るさを落としている可能性もあるので今後は色を黒くし過ぎないように注意すべきだ。

- ・IFBBはクラシックボディビルの普及発展に力を入れてきて、出場選手も増えてきた中で日本の3選手は4位5位5位と全員6位以内に入り実力をつけてきた。今後さらにアンチドーピングを目指す競技として選手のレベルアップと広がり期待したい。

- ・今大会では6位以内に7人が入賞者することができたが、今後も派遣や自費参加選手も6位以内に入る選手を推薦していきたい。

最後に今大会は大変厳しい大会になったと感じています。特にホテルが大会会場やメインホテルからもタクシーで20分も離れており、そのたびにタクシーを使ったり、2日間昼ご飯をホテルでとれなかったり、帰りの足がなくなるのでパーティーも参加できなかった。ホテル自体もオフィシャルホテルに指定されていないため連絡が届かなかったり、お店も周りになく買い出しもできなかった。部屋もあまり暖かくなかつたのでシャワーのみで温度も熱くなく勢いがないので寒くて、私自身寒気が止まらなかったもので以後シャワーは控えたが選手はカラーを塗っているのと落とすため大変苦労したと思う。この様なことは締め切り間近の出場申し込みだったので、追加のホテルの確保だったことがルーマニア責任者に聞き分かった。今後は早めにエントリーをするべきと思う。

今大会にはフジテレビより取材のディレクター2人がジュニア選手の相澤選手に取材に同行しており、我々と行動してくれたおかげで大変助かった。現地ルーマニアのサンドラさんという女性が英語と日本語を話し、我々にも気持ち良く協力してくれ、時に

はルーマニア責任者との通訳をしてもらえた。フジテレビのディレクターのお二人とサンドラさんに対しては心より感謝したい。

来年開催はロシアの予定ですのでしっかり準備していきましょう。

成績

カテゴリー	順位	選手名	出場者数
マスターズ・ボディビル 55才以上75kg以下級	3位	難波文義	14人中
マスターズ・クラシックボディビル 45才～49才	4位	松岡 啓	14人中
マスターズ・クラシックボディビル 40才～44才	5位	仲泊兼也	18人中
マスターズ・クラシックボディビル 50才以上	5位	林 勇宇	14人中
ジュニア・ボディビル 75kg以下級	5位	相澤隼人	9人中
マスターズ・メンズフィジーク 40才～44才	4位	佐伯伊都企	24人中
マスターズ・ボディフィットネス 45才以上	5位	山本加容子	15人中
マスターズ・ウイメンズフィジーク 35才以上	7位	山野内里子	15人中
マスターズ・ボディフィットネス 45才以上	10位	長嶋雅子	15人中
ジュニア・ビキニフィットネス 160cm級	10位	許 冴恵	13人中
マスターズ・ビキニフィットネス 35才以上	11位	秋本明子	24人中
マスターズ・ボディビル 50才以上80kg以下級	12位	村松幸大	18人中
マスターズ・ボディビル 55才以上75kg以下級	14位	金澤利翼	14人中
ジュニア・メンズフィジーク 174cm以下級	14位	安田旬輝	14人中
マスターズ・メンズフィジーク 40才～44才	15位	中村厚志	24人中

以上15人